

平成 31 年度 世羅町立世羅中学校教育研究計画

1 研究主題

「自ら学び，豊かに表現する生徒の育成」

～対話的な関わり合いを通して～

2 主題設定の理由

これからの学校教育においては、主体的に課題を発見し、多様な考えの人々と協働して、課題の解決を図ろうとする主体的な学習活動を推進し、社会に必要とされる資質や能力を育成することが求められている。

本校では、これまで、授業の中で「世羅中学校授業モデル」や「思考・表現スキル」を活用したり、また「比べる・関係付ける」などの視点を明確にした発問を工夫したりすることにより、生徒の思考力や表現力を高める取組を行ってきた。しかし、昨年度に実施した学力分析や意識調査アンケートの結果では、本校の生徒は、特に話し合い活動や表現力に課題があることが明らかとなった。

そこで、これらの課題解決を図るとともに、主体的に課題発見・追求する生徒の育成を目指して、協働学習や書く活動を取り入れた授業の工夫を行うべく本主題を設定した。

とりわけ、本年度は生徒の学習意欲を高めるために、学習テーマの設定方法を工夫するとともに、これまでの取組で成果のあった単元や1時間の授業における課題設定の工夫を充実させ、協働学習を推進していく。

3 研究仮説

知的好奇心をゆさぶる学習テーマを設定し、考え方や伝え方を習得させ、学びを深める協働学習を取り入れれば、生徒は主体的に課題を発見・追求していくようになるであろう。

4 研究における言葉の意味

(1) 主な言葉の意味

(1) 「世羅中学校授業モデル」

- ・学習段階として、「課題設定→個人思考→集団思考→まとめ」の4段階を設定
- ・「思考・表現スキル」の活用場面を設定
- ・「書く活動」の実施

(2) 「思考・表現スキル」

- ・個人思考と集団思考の場面に取り入れ、自らの考えを整理したり、組み立てたり、相手にわかりやすく話したりするためのツールとして生徒が活用するスキル

(3) 「書く活動」

- ・主に、個人思考とまとめの場面に取り入れ、書くことで個人の考えをもたせること
- ・授業における課題設定場面やまとめの段階に取り入れ、基礎・基本の徹底と共に、思考スキル・表現スキルを活用する力を育てること

(4) 「3ポイント発言」

- ・授業における発言の際に、他者の考えを受けとめ、自らの思考を深めるため3点を設定
 - ①つなぐ（自分の意見が、前の発言者の意見とどのようにつながっているのかを述べる。）
 - ②結論（自分の意見の結論を述べる）
 - ③理由（結論に至った根拠を述べる）

(2) 本校における思考・表現スキル

◆思考スキル 課題を整理し考えを組み立てる技能	●表現スキル 自分の考えを相手にわかりやすく伝える技能
視点 (視点を絞って考える・焦点化する) 比較 (複数のものを1つの視点で比べて考える) 関係付け (複数のものを複数の視点で比べたりつなげたりして考える・自分の知識や経験とつなげて考える)	相手意識 (声の大きさやルールに従って、自分の考えを発言する・記述する) 理由 (理由をつけて説明する) 要約 (自分の考えや相手の考えのポイントを整理する)

(3) 協働学習とは

<ul style="list-style-type: none">・集団思考を通じて、生徒の考えの質を高めることのできる授業・ペアや3～4人グループ、生活班等の小集団による学習 ※目的を明確にする。(広げる・深める・まとめる) ※指示を明確にする。(何のために、何を、何分話し合う、司会の進め方等)
--

(4) 課題を発見し追求する生徒とは

<ul style="list-style-type: none">○文や図等を使って自分の考えを整理し、課題を見つけようとする生徒○視点を持って考えたり、相手にわかりやすく伝えたりする生徒○他者の考えを受け止め、自分の考えと比較しながら、より良い解決策を求めようとする生徒

5 今年度の取組の重点

<p>(1) 創り上げたことを発信する力の育成</p> <p>積極的に発表の機会を設定し、段階的に実行に向かえるよう、次の3点を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none">①練る (人に伝わりやすいものにするため、論理性や心に響く表現を工夫する。)②磨く (人に伝えるため、非言語面《身振り・手振り等》を工夫し、感情や思いを込める。)③発揮する (本番に慣れるために、実行の前段をつくる。実行場面を単元の中に仕組む。) <p>(2) 創り上げたことを発信する力の育成</p> <p>積極的に発表の機会を設定し、段階的に実行に向かえるよう、次の3点を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none">①練る (単元ごとの事前事後調査・検証。つきたい資質・能力を考えた単元構成。)②磨く (シミュレーションによる授業力アップ。小集団活動の設定。)③発揮する (実行する場の設定。リハーサルの設定 (改善策を考える機会づくり。))

6 検証の視点

(1) 指導の工夫に対する検証の視点

- ア 授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」、「やってみよう」と思う生徒の肯定的評価の割合を80%以上
- イ 学級またはグループのみんなに、自分が困っていることやわからないことを出すことができると感じる生徒の肯定的評価の割合を80%以上
- ウ 苦手なことにも、ねばり強く取り組むことができると感じる生徒の肯定的評価の割合を75%以上

(2) 学力向上にかかわる検証の視点

- ア 全国学力・学習状況調査における校内平均通過率が全国平均を上回る
- イ 標準学力調査において、課題となった問題の解答率の5ポイント上昇